

多布施川（たふせがわ）（佐賀県）

堤沙織

はじめに

私の実家は九州の佐賀県佐賀市にある。自然の豊かな環境で、福岡県との県境に山間部があるが、山を降りて有明海まで行くと、そのすべてが平野である。東京に来て間もない頃は、急な坂が多いことに驚いた。平野が多いために、川の流れは緩やかなものが多い。また、平野の多いことや水がきれいなことから、昔から田んぼが多く広がっており、生き物達も数多く生息している。雨が多く降るため、米の生産も盛んであり、暖かい気候であるため、みかんなどの果物もたくさん作られている。今回は実家近くを流れている**多布施川（たふせがわ）**という川について調べた。これから多布施川について気付いたことを述べていく。



多布施川について

多布施川は同じ佐賀県にある嘉瀬川から、私の実家がある佐賀市大和町で別れて、佐賀市内の方へ流れている川である。季節の変化とともに、違った楽しみが味わえる。例えば、春は桜が咲き、ゲンジボタルやトンボを見ることができる。今から約400年前の江戸時代に、成富茂安が嘉瀬川からの分岐点に築いた石井樋（いしいび）は、水害の防止や農業用水、生活排水を送る施設として役立ってきた。近世において、この石井樋のような施設は珍しく、現存する日本最古のものとして文化的にも評価されている。多布施川の近くは「石井樋公園」という公園が作られている。

今まであまりに身近な存在であったため、じっくり観察したことがなかったが、今回自分の目で見て気がついた点はいくつかあった。

最初に目についたのは、一見透き通ってきれいに見える川の水であるが、よく見ると川の底の方に空き缶やビンなどのゴミがあったことである。釣りをする人がいたり、近くにバーベキューなどができる場所があったりすることから、休みの日などは人が集まることも多く、そのためゴミが捨てられているのだと思う。

次に気づいたのは、近くに公園があつて緑が多いため、自然豊かな場所に感じられたことである。また、水の流れも穏やかであるので、気持ちを落ち着かせてくれるような気がした。耳をすますと鳥の鳴き声が聞こえてきた。冬という季節のせいか、芝生の色

が少し黄色くて、少し寂しい印象だった。川はコンクリートに囲まれているため、周りの景色とは反対に人口的に見えた。



私と多布施川との関わり

私は小さい頃からの多布施川の近くに住んでいたため、休日に家族で釣りに行った思い出がある。中でも一番印象に残っていることは、夏の暑い日に川の上流の方へ行って川の中に入り、ままごとをしたことである。石がたくさん転がっているため、それを使って川を家のように例えて、石で部屋を区分しながら遊んだことをよく覚えている。遊びにきていたのは私たちだけであったため、長く続く川が広々としていて、まるで自分が広い家に住んでいるかのような気になり、とても気持ちのよい経験だった。未だに上流の方はきれいな水が流れていて、それほど遠くないところにあるので、また川に入って幼い頃の気持ちに戻ってみたい。

多布施川の昔の様子

私の父は生まれも育ちも佐賀県佐賀市なので、多布施川についてよく知っているだろうと思い、話を聞いた。父の話では、昔はプールが整備されていなかったため、夏になると多布施川などの身近な川で泳いでいたと言っていた。タイヤのチューブを浮き輪代わりにして遊んでいたという。また、川の上流はきれいであったが、下流の方は洗濯や生活排水が流れていたことにより、そこまできれいではなかったということだった。今はあらゆる場所がコンクリートで固められているが、昔はそうではなかったため、ザリガニやメダカを捕まえたりもでき、たくさんの生き物に触れて育ったと話していた。

終わりに

今回、エッセイのテーマとして川について調べることで、長年住んでいた地域にもかかわらず、じっくり観察してみると、今まで気付かなかったことも発見でき、いい機会となった。週末になると家族連れなどでにぎわっているので、人々からは好まれて

いる川なのだと思う。また、多布施川の近くには「さが水ものがたり館」という施設があり、多布施川などの佐賀の川の紹介や水について詳しく説明してあるので大切にされている川なのだということがわかる。佐賀は水のきれいな地域であり、そのため川に住む生き物たちも暮らしていくことができているので、この環境が守られていき、またよりきれいな川になってほしい。世界的にも環境の悪化が懸念されていて、川や川の中の生き物にも少なからず影響は起こっていると思うが、これからも長く生き続ける川であることを願う。

参考文献

佐賀市水道局ホームページ

<<http://www.water.saga.saga.jp/seiryu-tafuse/seiryu-tafusegawa.htm>>